

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200385		
法人名	株式会社グランファリスナー		
事業所名	グループホームひだまりの丘		
所在地	岐阜県美濃加茂市西町7丁目101番地2		
自己評価作成日	平成25年2月1日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2171200385-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成25年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①音楽療法を軸にピアノ、ハーモニカ、打楽器等を使いながら歌声の響くグループホームで利用者様は読み聞かせ、編み物等の楽しみを見つけて毎日を穏やかに生活している。</p> <p>②天気が良ければ毎日体力に応じた散歩をして体力を維持する支援をする。</p> <p>③季節や伝統のある田舎生活を感じる行事食を楽しむ支援をする。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、なだらかな丘に建ち、「ひだまりの丘」の趣がある。その環境の中で、利用者一人ひとりが健康で生き活きと、生きがいを持って生活できるよう、自立支援の原則を支え、地域に開かれたホーム作りを実践している。職員は、利用者への優しい心とまなざし、笑顔で寄り添い、より良いサービスを提供できるよう日々研鑽を積んでいる。誕生日や正月、夏祭りなどの催し物を、にぎやかに楽しく行うことで、利用者が豊かな気持ちで生きがいを持って、生活できるよう支援をしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々眼のつくところに貼り共有し実践できるよう努力している	毎日の業務予定表に「地域社会に開かれたホームを作る」等、七つの理念を明記している。職員は、日々確認し、共有しながら健康で明るい暮らしができるよう支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り等に参加していただいたり散歩時の交流等努力している	地域との交流を積極的に行っている。ホームの夏祭りに、自治会長や民生委員、地域住民が参加している。保育園児やボランティア、音楽療法士との交流も継続しており、馴染みの関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの研修を受講させ地域の要請があれば対応したいと考えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で当施設のサービスの現状を理解してもらっている	会議は、民生委員や行政、家族等が参加し、隔月に開催している。行政担当者から、災害時、自治会や班単位での協力体制を考えるようにとの提案があり、今年度の取組みの一つとして対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と連携を密にし指導を受けている	利用者の現状や、取り組み等、きめ細かに実情を伝え、ボランティア受け入れ等の協力を得ている。「スプリンクラー取り付け」に関する手続き等、気軽に相談し、協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について学習し取り組んでいる 昼中は玄関の施錠をせず経過を見ている	身体拘束に関する外部研修に参加している。法人内に虐待防止委員会を設け、気付き箱を設置する等、職員の意識付けを徹底し、拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	徹底するよう毎朝のミーティングにも話合っている 虐待防止委員会を設置し取り組んでいる		

岐阜県 グループホーム ひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の進んだ2人の方に成年後見人制度活用を勧め決定を得よう支援した 研修を受け日常的に事例を通話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約に関する説明を丁寧に実施している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で話われたことや家族からの意見を反映するよう努力している	毎月、家族あてに利用者の近況報告の手紙を送り、意見・要望を確認している。家族からは、外出や外泊の支援、熱中症予防等の意見があり、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスを月1回設けて意見を取り上げるように努力している	月例会議やケアカンファレンスで、活発な意見交換をしている。ホーム行事の企画運営や、就業環境の改善などを提案し、運営に反映させている。さらに、職員の力が発揮できるような仕組みを検討している。	今年度に入り、3名の職員を採用している。新鮮な気づきや提案が表出され、運営の活性化が図られることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境の一般水準等を調査し条件整備に努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内での研修も計画し、部外研修には積極的に参加するよう配慮している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議等に参加し且つ、研修に参加、サービスの質の向上させようと取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所初期には特に安心、安全を念頭に関係作りをしている 趣味等も介護に生かすよう努力している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも安心していただけるよう要望に耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応には「今」何を求めているか？支援の方法を見極める努力をしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に共生の理念を活かすよう努力している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が協力して利用者様の自立支援に向け努力している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が持続するよう援助している	家族、友人等の面会時は、お茶を飲みながらゆったりと過ごし、次回に繋げるよう支援をしている。家族の協力で、墓参や馴染みの店へ買い物に出かけ、関係が途切れないように継続をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を把握し支えあう関係になるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方との関係も必要に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に希望をくみ取れるよう努力している	手押し車を押して買い物に行く道中、思いや生活歴を知ることができる。息子に迎えに来てほしい利用者には、息子から電話を入れてもらっている。帰宅願望者には、周辺をドライブして、気分転換を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時、入所時等、利用者様と家族から情報を得ている 面会や通院時の会話から得た情報も共有し介護に生かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎身体調を含め状態に合わせて援助している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを行い現状にあった介護計画になるよう努力している	全職員でケースカンファレンスを実施している。先ず、担当者が、本人をはじめ、家族や全職員の意見を取り入れ、介護支援専門員がチェックして、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が次の実践への気づき、工夫になるよう検討し改善している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを日常的に追及している		

岐阜県 グループホーム ひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不十分ではあるが地域資源を活用できるよう努力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回定期的に連携医の健康管理を受けているが利用者様と家族の希望に沿ってかかりつけ医の治療を受けている	3名の利用者が協力医をかかりつけ医とし、他は、個々にかかりつけ医を持っている。協力医による往診体制がある。家族の都合により管理者が受診に同行し、医療機関と連携を図り、適切な医療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員に2人看護職がいる為、看護職と連携医、かかりつけ医の連携で健康管理をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との連携を密に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との話し合いは早い段階から進めている	管理者である看護師と、協力医が連携し、終末期の支援を受け入れている。本人や家族の要望を受け、早い段階から関係者での話し合いを進めている。本人・家族の意思が確認できるように、指針づくりを検討している。	協力医、かかりつけ医との協力体制を整え、重度化や終末期に向けた指針づくりの具体化に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時について検討している実践力について今一步と考える		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害について話し合いをしているが地域との協力体制が不十分である	グループホーム「ひだまりの丘」消防計画に従い、避難誘導、通報、初期消火等、年に2回訓練を実施している。地域との協力体制づくりは、今後の課題である。	運営推進会議を通し、地域との協力体制作りに取り組まれることを期待したい。夜間を想定した訓練を実施し、日頃から避難経路に邪魔なものは置かないことにも配慮されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護記録に特記事項は反対色のボールペンを使用して、記録し職員の注意をうながしている 個別性支援について日々努力している	管理者は、職員が利用者に対し、自尊心を傷つけような、何気ない言葉かけや対応等は、その都度指導し、対応をしている。日頃は、温かい態度で、馴染みのある言葉で話しかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り自己決定し納得しながら暮らせるよう援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限りその人らしさを尊重し希望をいかしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節はずれの服装等の際は季節を知らせ身だしなみが整うよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感を大切に地方色を生かした食事等、話題にしながら食事の準備をしている	食材の皮むき等、下ごしらえや後片付けを、職員と共に行い、材料の無駄を出さないように、関わっている。赤カブラの、美味しい漬け方を、利用者に力を発揮してもらったり、行事食づくりと一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量は本人の適量を聞き且つ栄養バランスを維持出来るように、又夏場の水分ミネラル確保には注意して援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に働きかけ、自立していない人には口腔ケアをしている		

岐阜県 グループホーム ひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄支援の担当者を決めその方針に沿って個別指導している	排泄支援の担当者が、一人ひとりの状態に合わせたパッドのサイズ、扱い方など、個別に指導をしている。何よりも、トイレで排泄できることが、当たり前になるように、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の冷水を飲む等、個々に応じた援助をしている 体操時物理的刺戟をする試みをしている(の、の字に圧迫)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一応の入浴タイムはあるがタイミングの合わないひとには個別にどんな時間でも合わせて支援している	入浴時間等、利用者の希望に合わせて支援している。柚子、菖蒲、みかんの皮などを使用し、楽しみにつなげている。入浴嫌いの人は、無理強いせず、タイミングよく促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠生理に合わせて日光浴も試み又、夕方くつろぎタイムの援助を工夫し安眠への援助をしている 冬はゆず湯等で身体を温かくする工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	実施している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別の好みを活かすよう気分転換を図っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出支援をしている	ホーム周辺の散歩が毎朝の日課になっている。外食や買物等へ出かけたり、花フェスタ公園へのバラ見物等、戸外へ出かける機会をつくり、ボランティアの協力も得て、外出を支援している。	

岐阜県 グループホーム ひだまりの丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知状態を見極めながら本人にお金を所持してもらっている(盗られ妄想の強くない人)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している 電話を毎日かける人もいる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の居心地には季節感を採り入れて十分な配慮をしている	共用の場には、お雛様や内裏様を飾り、雛あられが添えてある。花瓶に飾った猫柳や菜の花に季節感があり、観葉植物も彩りを添えている。床暖房と湿度を、適度に管理し、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間での椅子とり等にも配慮している 気の合わない人のニアミスをさけるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の居心地には家族と相談し工夫している	居室には押入れがなく、ハンガーに必要な衣類をかけ、自分で選べるように工夫をしている。持ち込んだ箆笥の上に、時計や写真、好きな作品や花を飾り、安心して暮らせる部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の安全に留意している		